

わたしたちは神に造られたもの

奨励	裴 貞愛〔ベ・ちゃんえ〕
奨励者紹介	同志社大学神学研究科生

事実、あなたがたは、恵みにより、信仰によって救われました。このことは、自らの力によるのではなく、神の賜物です。行いによるものではありません。それは、だれも誇ることがないためなのです。なぜなら、わたしたちは神に造られたものであり、しかも、神が前もって準備してくださった善い業のために、キリスト・イエスにおいて造られたからです。わたしたちは、その善い業を行って歩むのです。

（エフェソの信徒への手紙 2章8―10節）

ハレルヤ！学生聖歌隊の皆さん、力強い賛美、ありがとうございます。イエス・キリストにおいて神様の恵みによる皆さんとのこの時間を感謝します。この時間、聖霊の御働きにより神様の御声を聞く時間でありますように切に願います。学生聖歌隊が「うるわしの白百合」を歌ってくださいましたが、復活節第4週目の聖日を過ごしたわたしたちに、イエス様が現れ「あなたがたに平和があるように」と優しく声をかけてくださるような気がします。ゴールデンウィークが終わりキャンパスには緑がいっぱいであるこの季節は、真理探究に一番良い季節ではないかと思えます。

皆さん、大学での生活はいかがでしょう。新入生の皆さんは大学の生活に少し慣れてきていますか。去年の今ごろ、チャペル・アワーに参加したわたしは言わばカルチャー・ショックを受けました。カルチャー・ショックを受けた分、今は理解の幅が広くなり成長している自分がいるので感謝しています。

今日の聖書箇所から、わたしたちはどういう存在であり、どのように生きるべきかについて学びたいと思います。

わたしたちは神に造られたものです。

創世記1章1節に、「初めに、神は天地を創造された」とあります。「神は御自分にかたどって人を創造された。（中略）男と女に創造された」（創世記1章27節）と書いてあるように、神はわたしたちの創り主・創造主です。わたしたちは神に造られたものであります。

また「光を造り、闇を創造し／平和をもたらし、災いを創造する者。わたしが主、これらのことをするものである」（イザヤ書45章7節）と書いてあり、「主よ、あなたは我らの父。わたしたちは粘土、あなたは陶工／わたしたちは皆、あなたの御手の業」（イザヤ書64章7節）と書いてあるように、わたしたちは主のもの、神の作品です。

わたしたちは神の恵みによりキリスト・イエスを信じる信仰によって救われたものです。

わたしたちが救われたのは、神の賜物です。わたしたち自らの力によるのではなく、行いによるものでもありません。それは、誰も誇ることがないためなのです、と今日の聖書箇所にははっきりと書いてあります。

「罪が支払う報酬は死である」がゆえに、神様は独り子のイエスの十字架上の犠牲により、十字架の死という代価を払ってわたしたちを買い取られたのです。それで、コリントの信徒への手紙一6章20節に「あなたがたは、代価を払って買い取られたのです。だから、自分の体で神の栄光を現しなさい」と書いてあるのです。

神に創られキリスト・イエスを信じる信仰により救われたわたしたちは、どう生きるべきでしょうか？

(1) 神の栄光のために生きるべきです。

イザヤ書43章7節に「彼らは皆、わたしの名によって呼ばれる者。わたしの栄光のために創造し／形づくり、完成した者」であると書いてあるように、わたしたちは神の栄光のために創造された神の作品なので、神様の栄光のために生きるべきでしょう。

(2) 神を賛美すべきです。

詩編69編31―32節「神の御名を賛美してわたしは歌い／御名を告白して、神をあがめます。それは雄牛のいけにえよりも／角をもち、ひづめの割れた牛よりもなお／主に喜ばれることでしょう」。これを読んでわたしはものすごく嬉しく思いました。なぜなら、神を賛美するには、物質がなくても名誉がなくても地位がなくてもOKなのですから。わたしは週3日バイクで片道40分の距離を往復して走りますが、その時間は讃美歌を歌い神との交わりの時間です。出発時は祈りから始め、日本語の歌詞を覚えながら賛美します。心の底から神様を崇め感謝を込めて賛美します。人々からはあなたの顔は輝いているよと言われます。その秘訣は何だと思えますか。神様は生きておられ、わたしの心の底からの賛美を聞いておられるからです。賛美ができることはどれほど幸せなことでしょうか。

(3) いつも喜んで、絶えず祈り、どんなことにも感謝すべきです。

使徒パウロはテサロニケの信徒への手紙一5章16―18節で「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。これこそ、キリスト・イエスにおいて、神があなたがたに望んでおられることです」と書いています。

生活においては自分の願いどおりにならない時もたくさんあります。喜べない時もたくさんあります。しかし、神様はすべてをご存じですから、ご自分の民、ご自分の子どもを顧みられる方であるという信仰をもって、主にあっていつも喜び、聖霊に助けられ、絶えず祈り、どんなことにも感謝する生活を目指すべきでしょう。

神が前もって準備してくださった善い業のために、キリスト・イエスにおいて造られたわたしたちは、その善い業を行って歩むのです。

「すべてのものは、神から出て、神によって保たれ、神に向かっているのです。栄光が神に永遠にありますように、アーメン」（ローマの信徒への手紙11章36節）。

いつかこの世の生活が終わり、神の御前に立った時に「よくやった、忠実で良い僕（しもべ）よ」と言われるわたしと皆さんでありたいと願います。